

公益財団法人 日本バレーボール協会
第8期・2017年度事業計画
(2017年4月1日～2018年3月31日)

1. 事業方針

本会は、わが国におけるバレーボール界を統轄し代表する団体として、グローバル化、情報化、少子高齢化、格差拡大などの急激な環境変化の中、バレーボール競技の普及、振興および発展を図り、児童・青少年から高齢者に至るまで、国民の心身の健全な発達、維持および人間性の向上に寄与し豊かな社会の形成に貢献することを目指す。

その為に、昨年度策定された長期計画「2050構想」に基づく「2020中期計画」の本格実施初年度となる2017年度は、以下の中期計画基本方針に基づき事業を推進する。

＜中長期計画の数値目標＞

| | I プレーヤー人口 | II 事業規模 | III 競技力 | IV 社会貢献 | V 高潔性 |
|------------------|----------------|---------------|-------------|-----------------------------------|---------------------|
| 長期計画 2050年構想 | 登録選手数 100万人 | 事業規模 100億円 | 4つの 金メダル | 支えるバレー ボールファミ リー人口 100万人 | 違法行為・ 暴力・体罰 0 |
| 中期計画 2020中期計画 | 登録選手数 50万人 | 事業規模 30億円 | 4つの メダル | 支えるバレー ボールファミ リー人口 70万人 | 違法行為・ 暴力・体罰 0 |

—5つのアクション—

■「東京2020メダル獲得」に向けた強化新体制での着実な歩み

- ・人心を刷新するための新体制とチームコアの更なる充実に向けた取り組み

■楽しく始められて、世界につながるバレーボールを具現化する体制作り

- ・指導普及、発掘育成、強化、技術研究などの効果的運用の研究及び実践（楽しいバレーボールの指導方法の確立と実践、指導方法の基準作り等）
- ・ビーチバレーボールの普及、強化、ファン増加及びその為の環境づくり

■事業運営体制を見直し、各種事業レベルの向上

＜バレーボールビジネスの拡大＞

- ・国内/国際大会の見直しと再構築（増客化、権利構造）
- ・メディア露出、広報活動、対スポンサー活動などバレーボールのビジネス化への取り組み

＜バレーボールを支える人々の環境整備＞

- ・指導者育成システムの構築
- ・審判員の計画的育成や登録システムの改善による質の向上
- ・登録者サービスや各種機能の向上による登録制度の改善

■上記方針等バレーボール界全体の意識統一の為の伝播活動

- ・哲学と理念の共有による本会と加盟団体の更なる成長

■バレーボールのプレゼンスの向上

- ・外部団体への積極的アプローチ（日本体育協会、JOC、FIVB、文部科学省、スポーツ庁ほか）